

群馬県立西邑楽高等学校 学校評価 一覧表 ① (平成29年度版)

(様式1)

羅 針 盤			方 策	第1回点検・評価			第2回点検・評価			
評価対象	評価項目	具体的数値項目		自己評価	外部アンケート等	改善策	自己評価	外部アンケート等	改善策	
I 特色ある学校づくりに努めていますか。	1 特色ある教育活動を行っていますか。	①自分の学校を好きだと感じている生徒の割合が、80%以上である。	・積極的な生徒理解、信頼関係づくりに努め個に応じた指導により学校生活をサポートする。	B	C	・昨年に比べアンケート結果が悪くなっている。何が原因をしっかりと分析し、今後に活かしながら、個に応じた指導の充実をはかっていく。	B	C	・面談等を通して、信頼関係の確保に努め、生徒が充実した学校生活を送れるよう学校行事等の充実を、生徒の充実感を生み出せるようにつとめる。	
		②各職員が「本年度の重点目標」、「羅針盤」を指針として自己目標を設定し、教育活動の改善に努めている。	・「羅針盤」の評価項目・具体的数値項目を全職員に周知し、自身の目標設定及び指導の指針とし、年間を通して改善に努める。	B	—	・自己申告(中間申告)を実施し上半期の取組を検証し、各職員が教育活動の改善を図る。	B	—	・自己申告(最終申告)と面接を実施し、目標の実現度を検証して成果と課題を明確化し、次年度以降の目標設定に活かす。	
		③習熟度別授業(数学・英語)に満足している生徒が85%以上である。	・教育課程の見直しを通し、生徒の進路希望に応じた必修科目及び選択科目を用意し、生徒の習熟度に応じたきめ細やかな指導を行う。	B	B	・昨年度に比べ、習熟度別授業に満足している生徒が減少している。数学・英語ともに授業の内容を見直し、更にきめ細やかな指導を行えるようにする。	A	A	・第2回の調査では、習熟度別授業に満足する生徒がほぼ85%となった。授業内容を工夫するなどして更に効果的な授業になるよう努める。	
		④専門教科の授業に満足している生徒が85%以上である。	・各生徒の個性、能力の情報の共有により、部活動連動型の授業・専門科の少人数指導を効果的に実施する。	A	A	・専門教科に対する生徒の満足度は高い、しかし昨年度より若干アンケートの数値が下がっているため、更なる授業の充実を図る。	A	A	・スポーツ科・芸術科ともに専門教科に対する満足度は高く、今後も継続できるよう努力していく。	
II 生徒の意欲的な学習活動について適切な指導をしていますか。	2 生徒の実態に応じた指導を行っていますか。	⑤主体的・探究的な授業への取組を進め、学習に対する達成感・満足感を持っている生徒が80%以上である。	・校長による授業観察やステップアップサポート事業による教員相互の授業観察・授業研究を通じて常に授業を振り返り改善を図る。	B	B	・職員研修等を通じて授業改善や授業研究に対する意識を高め、お互いの授業を積極的に観察できる環境を整備していく。	B	B	・今後も職員研修、授業観察・授業研究等を積極的に実施し、職員の意識の啓発に努めていく。	
		⑥「朝の読書」を含め、生徒が1年間に12冊以上の本を読んでいる。	・毎朝実施の「朝の読書」、図書館オリエンテーション、LHR読書会や推薦図書リストの発行などを通して、生徒の読書習慣の確保に努める。	B	B	・前年と比べ1ヶ月に1冊以上本を読む生徒の割合が下降傾向にあるため、情報発信を継続し上昇傾向に移行したい。	B	B	・1年間に12冊以上の本を読むことを目標としたが、道半ばであり、情報発信を工夫し、読書習慣の確立を目指す。	
	3 生徒は確かな学力を身に付けていますか。	⑦生徒の家庭での1日の平均学習時間は、1,2年生で80分以上である。	・授業の予習・復習を徹底させる。 ・教科間で連携して課題等を適切に課し、その提出状況を学年内で共有し組織的な指導を行う。	B	B	・進路指導部と連携して進路に対する意識を高め、目的達成のために自ら学習する態度を身につけさせる。	B	B	・授業の改善と、補習授業の実施を通して、日頃から学習に積極的に取り組む意識を身につけさせる。	
		⑧実用英語技能検定の合格者が、2級5名、準2級30名以上である。	・英語検定に対する生徒の意識を高めるとともに、全体的な基礎学力の向上を図り、学力の上位の生徒に対しては応用力の育成も図る。	B	B	・英語検定の意義をしっかりと理解させながら、指導は継続していく。	B	B	・今後は大学進学等に英語の外部試験が利用される傾向にあり、その必要性が高まる。進路指導部と連携して積極的に取り組ませていきたい。	
III 生徒の充実した学校生活について適切な指導をしていますか。	4 組織的・継続的な指導を行っていますか。	⑨学年会議等において、生徒に関する情報交換を月に2回以上実施している。	・学年会議の議事録を管理職に提出する。また職員会議等において、生徒に関する情報の共有化を図る。	A	A	・問題を抱えている生徒が増加傾向にある。職員間の生徒に関する情報の共有が重要であるため、引き続き共有化を進めていく。	A	A	・各学年とも問題を抱える生徒数は増加しているが、職員間での連携・情報交換がはかられている。今後も継続していく。	
		⑩登校時指導等を通じて、あいさつ・服装・遅刻防止に関する指導を進め、生徒のあいさつができてきているという評価が70%以上(教職員アンケートによる)である。	・毎朝の登校時指導や日常の学校生活において、教職員からのあいさつを積極的にやっていく。	B	B	・登校時指導等により全体的な遅刻数は減少している。(該当者が特定されている) ・服装やあいさつについては指導が必要な生徒が見られるため、声かけ指導等を積極的に行う。	B	B	・大部分の生徒はしっかりと挨拶することが定着しつつある。明るくこやかに挨拶することを次の目標とする。	
		⑪服装髪指導の係指導の対象となる生徒が10名以下、遅刻指導該当者が年間15名以下である。	・職員と生徒で共に考え、規律ある学校生活が送れるようにする。特に集会や委員会での呼びかけを積極的にやっていく。	B	B	・髪型服装指導・遅刻指導ともに対象者が絞られてきている。引き続き指導を継続していく。	B	B	・各学年での指導が行き届いており服装髪指導の係指導対象者はいなかった。 ・女子の靴下やスカートに関する指導の工夫が必要である。	
		⑫自転車点検や事故防止啓発活動を通じて、過失事故や重大事故を0にする。	・交通安全教室と年2回の自転車点検、「交通安全だより」の発行等を通じて、生徒の交通安全意識の高揚を図る。	B	B	・自転車の乗り方についての指導が必要である。生徒の交通安全に対する意識の高揚を引き続き図る。	B	B	・重大事故は起きていない。しかし、自分の身を守る意識は低い。さまざまな取組によって、自分の身近に危険があることを認識させる。	
	5 生徒は健康で、規則正しい学校生活を送っていますか。	⑬生徒の健康診断に基づく受診率が50%以上である。	・月に1回の「保健だより」の発行により、健康管理に関する情報を常に発信し、家庭と協力して取り組む。	B	A	・保護者への受診勧告通知に工夫を加え有効利用の工夫をする。	B	A	・生徒及び保護者への受診勧告を引き続き行っていく。	
		⑭不登校の生徒0を目指す。	・教育相談係を中心として、全職員への情報提供や専門家によるカウンセリングを通して、組織的な相談体制を強化する。	B	A	・スクールカウンセラーと職員との情報交換を密にし、有効な教育相談を行う。	B	A	・SCと職員及び保護者との情報交換を密にし、生徒の気持ちに寄り添った有効な教育相談を行う。	
		⑮いじめの未然防止に努め、いじめ問題解決率100%を目指す。	・アンケートを年2回実施し、組織的に情報を共有することにより、いじめの早期発見と解消に取り組む。	B	A	・スクールカウンセラーと職員および保護者との情報交換を密にし、有効な教育相談が行えるようにする。	B	A	・SCと教職員及び保護者との情報交換を密にしアンケートの有効利用を図り、有効な教育相談が行えるようにする。	
	6 生徒主体のいじめ防止活動に積極的に取り組んでいますか。	17 LHRでのいじめ防止活動に主体的に取り組んでいる生徒が70%以上である。	⑯部活動に加入している生徒が、70%以上であり、充実していると感じている生徒が70%以上である。	・部活動紹介や活動環境整備を通して、加入率の向上と活動内容の充実を努める。	B	B	・部活動加入率70%と多くの生徒が加入している。各々が充実した活動になるよう、環境整備を推進する。	B	B	・生活の指導を含め各々が充実した活動になるように取り組む。
			⑰いじめ防止活動が身近な問題であるという認識をもたせ、主体的に防止活動へ関われるように指導していく。	・いじめ防止活動が身近な問題であるという認識をもたせ、主体的に防止活動へ関われるように指導していく。	B	B	・LHRを通し日常生活の中にある身近ないじめ問題を認識させるように指導していく。特にSNS等についての指導に力を入れていく。	B	B	・いじめ防止活動が身近な問題であるという認識をもたせる。またSNS等の指導を通して、書き込み等もいじめであることを認識させる。
			⑱生徒会行事を作り上げる過程で、仲間意識をもつことや他を認めることの大切さを認識している生徒が70%以上である。	・生徒会行事の企画立案・準備段階において「他者とともに作り上げていく」という意識をもてるように指導を工夫する。	B	B	・学校行事に対して積極的な生徒が多い。ただし自分たちで主体的に動いていないため、今後主体性の育成の指導にも力を入れていく。	B	B	・講話を開く機会やボランティア活動に取り組む機会を増やしていきたい。また生徒主体での活動になるよう生徒会本部役員を中心に行事等に参加させる。

IV 生徒の主体的な進路選択について適切な指導をしていますか。	7 計画的な指導を行っていますか。	⑱進路関係の行事や学習が役立っていると思う生徒が80%以上である。	・学年や生徒の進路希望に応じた進路プログラムの作成により、進路学習や行事を推進し、生徒が自らの目標を適切に設定できるようにする。	B	B	・生徒の進路希望に即した進路プログラムのあり方を考え、3年間を見通した計画立案に取り組む。	B	B	・69.7%と目標を下回った。生徒の進路希望と進路行事のギャップを解消することに努める。
		⑳文化祭や送別会等の生徒会行事に満足している生徒が85%以上である。	・準備段階から生徒会役員を中心として、企画立案をさせることにより、生徒が主役となるような行事運営を進めていく。	A	A	・生徒会役員が中心となり主体的な活動が推進されている。	A	A	・生徒同士で協力して生徒会行事がさらに実践されていけるようにする。
	8 生徒は自らの進路について真剣に考え、その実現に向けて取り組んでいますか。	㉑将来の職業や卒業後の進路について考え、進路実現のための課題を意識できた生徒が80%以上である。	・二者面談、三者面談を通じて、生徒一人ひとりの進路希望を把握するとともに、進路実現のための適切な情報提供を組織的に行う。	A	A	・生徒の進路選択に具体的に結びつき、就労意欲や学習意欲の高まるような系統的な進路行事のあり方を考える。	B	B	・72.3%と目標を下回った。3年間を見通した系統的な進路指導を考える。 ・体験的な学習も取り入れていく。
		㉒進路別講演会・大学見学・大学模擬授業などの進路行事に積極的に取り組んだ生徒が70%以上である。	・進路指導部を中心として各学年が連携をし、生徒の実態に即した指導を展開していく。	B	B	・開催時期や内容の精査とともに、各行事の意義をしっかりと伝えていく。	B	B	・各行事の意義を理解させる時間を設け、生徒が主体的に考える体制をつくる。
V 開かれた学校づくりに努めていますか。	9 家庭、地域社会に積極的に情報発信をしていますか。	㉓PTA総会に参加している保護者が50%以上、専門学科ガイダンスに参加している保護者が80%以上である。	・PTA総会等の保護者あて通知が必ず保護者に届くように生徒を指導するとともに、ホームページ、「PTAだより」等を活用し広報活動を徹底する。	B	A	・PTA総会の出席率は38%にとどまった。今後も担任等の指導を通して、保護者あて通知等が必ず家庭に届くよう努力していく。 「PTAだより」紙面の改善にも取り組む。	B	B	・PTA総会以外の行事にも気軽に保護者が参加できるよう、広報活動等に努める。 ・ホームページ内容についても周知徹底していく。
		㉔オープンスクールで「学校の様子がわかった」と答えた参加者が80%以上である。	・学校行事を中心に校内の情報を広く発信し、本校教育活動内容が理解しやすいように努める。	A	B	・部活動の状況を中心に、校内の情報を発信している。常に最新の情報へ更新することを継続していく。	A	A	・今後も早いホームページの更新につとめ、学校の状況、行事等の情報を発信していく。
		㉕学校のwebページを各行事等が終了の都度、早い段階で更新している。	・各分掌・組織と連携し、情報を素早く収集できるような環境の整備を図り、適時に掲載していく。	A	A	・学校からの情報や連絡について、今後も継続して発信していく。	A	A	・今後も今の状態を継続していく。